

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果について

令和5（2023）年11月にイネ縞葉枯病の媒介虫であるヒメトビウンカの越冬世代幼虫を採取し、保毒虫率と生息密度を調査しました。その結果、**イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は県平均4.4%でした（表1）**。県中部では昨年に比べて保毒虫率が高い地点が多く、防除が必要とされる保毒虫率10%を超える地点が1地点見られました。また、越冬世代幼虫の生息密度は県平均24.5頭/10㎡（平年比36.3%）と平年よりやや少ない発生でした（図1）。

保毒したヒメトビウンカ幼虫は再生稲（ひこばえ）やイネ科雑草で越冬し、翌年の感染源となります。翌春、成虫となった保毒虫は畦畔のイネ科雑草や麦類ほ場で増殖し、次世代成虫が水田に飛来しウイルスを感染させます。そのため、秋から冬の期間に、再生稲の早期かつ丁寧な耕起や畦畔のイネ科雑草の除草を行い、越冬場所をなくすことが重要です。

（イネ縞葉枯病の防除対策の詳細については、[病害虫防除対策のポイント No.17](#) を当センターホームページに掲載中。）

表1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率（単位：%）

年度	R3	R4	R5
県北部			
大田原市蛭畑	2.1	0	4.2
大田原市親園・実取	1.0	2.1	0
那須烏山市滝田	1.0	1.0	0
さくら市蒲須坂	3.1	3.1	6.3
高根沢町花岡	3.1	2.1	3.1
県中部			
真岡市横田	-	-	5.2
宇都宮市横山	1.0	1.0	7.3
宇都宮市雀宮	3.1	3.1	5.2
上三川町上三川	5.2	6.3	14.6
鹿沼市酒野谷	2.1	1.0	4.2
県南部			
下野市小金井	1.0	1.0	5.2
小山市小葉	2.1	4.2	3.1
小山市石ノ上	3.1	0	4.2
壬生町助谷	4.2	2.1	5.2
栃木市惣社	1.0	3.1	5.2
栃木市大平町真弓	3.1	1.0	4.2
栃木市藤岡町富吉	3.1	1.0	1.1
佐野市堀米	2.1	4.2	4.2
足利市上洪垂	0	0	2.1
県北部平均	2.1	1.7	2.7
県中部平均	2.9	2.9	7.3
県南部平均	2.2	1.9	3.8
県平均	2.4	2.1	4.4

注：検定サンプルは、令和5（2023）年11月中下旬に、水田畦畔や休耕田のイネ科雑草等から採取したヒメトビウンカ越冬世代幼虫
 検定方法：DAS-ELISA法
 検定数：91～96頭/地点

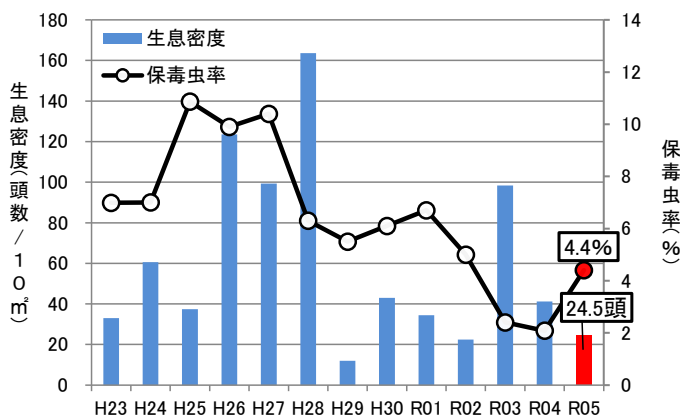


図1 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率及び生息密度の推移



写真1 イネ科雑草に寄生するヒメトビウンカ幼虫



写真2 再生稲で発病した縞葉枯病

詳細については、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。
 病害虫情報発表のお知らせは「農政部X（旧Twitter）（@tochigi_nousei）」、
 「農業環境指導センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g64/index.html>）」
 でもご覧になれます。

